



全消協ニュース

全国消防職員協議会発行／編集責任者 門間孝一／東京都千代田区六番町1 自治労会館／☎ (03) 3263-0271
ホームページアドレス／<http://zensyokyo.jp/>

全消協がテレビ出演!!

消防署の勤務実態に迫る
1時間番組

当日は携帯QRコードから
あなたも番組に参加しよう



迫会長と二木キャスターが現場レポートを通じながら、消防職場の課題や働くものが団結することの意味を考える1時間。越谷消防の現場レポート、全消協会員の声、畑中名城大学助教による惨事ストレス問題など、既存のメディアで語られることのなかった消防番組です。

3月25日(日) 18:00~18:55
衛星放送BS11にて放送予定(全国放送)

番組名:「本格討論FACE」

~消防119, 人命救助の職場から~

※ 視聴の際は、テレビのリモコンで「BS」→「11」を押してください。



団結権の回復に向け 一層の連帯を

悪夢の2011年が終わり、奇しくも「辰年」、苦難を乗り越え上昇する年としなければなりません。現在27人の仲間の命と家族に対し、全消協の誠意と思いを被災カンパとして送り届けています。被災地支援に終わり無く、継続的に消防組織として元気を与え貢献できればと常に考えています。また、公務員制度改革も山場を迎えています。民主党そして野田

全消協会長 迫 大助

第40回全国消防職員研究集会 6月に長崎で開催

東日本大震災の影響により開催が見送られていた全国消防職員研究会が6月13日から14日、長崎において開催される。

平和や脱原発が今ほど問われている時代はない。集会では川野原水禁議長の講演にあわせ、長崎平和公園への献花を行うほか、日本プロ野球選手会の松原事務局長を招き、プロ野球選手会の事例から組合活動を学ぶ



予定。幹事会として、これから全国に参加を呼び掛けていく。



今年度の全消協活動方針として緊急消防援助隊の派遣勤務条件について問題提起した。

東日本大震災においては、警察、自衛隊、海上保安庁とともに、全国の緊急消防援助隊が被災地で汗と泥にまみれて活動していることを多くの国民が目当たりした。

今回の震災で派遣された消防以外の三機関は、災害派遣手当について規定を設けており、その増額も検討中である。

しかし、消防職員は自治体職員であるため、同じ派遣隊として現地で災害救助活動をして、派遣手当とその他の手当が支給される者、出勤手当のみ支給の者、全く手当支給の無い者、様々であることを多くの国民は知らない。現在、地域の財政事情により特殊勤務手当を減額または全廃している自治体が全国に多数ある。

緊急援助隊に関する経費については政令で国がその全部を負担することとなっている。しかし、その請求も、派遣自治体の条例に則った請求であるため、特殊勤務手当全廃の自治体については請求するべきがない。いち早くこの問題に取り組んだ沖縄県などでは、県内自治体に対し派遣手当創設についての指導通知が出されている。しかし、自治体任せの手当設置では、いつになっても問題解決にはならない。早急に国として全国一律の緊急消防援助隊派遣手当制度の創設を望みたい。

近江 孝之(全消協北海道幹事)

第42回 労働講座

グループワークを通じハラスメント、財政、労働条件などを学んだ二日間

2011年12月7日から9日、全消協第42回労働講座を東京都で開催、全国各地から67人(うち未組織職場から8人)が参加した。労働講座は全消協活動の第一歩ともいべき集会で、消防財政をはじめ

じめ賃金・労働条件、男女共同参画など、消防職員が消防業務以外で普段学ぶことの少ない分野を幅広く学習する場となっている。最終日の模擬労使協議では、全消協役員が使用者側、受講者が労働者側に分かれ、賃金・労働条件について活発な議論を交わした。

1日目は班別交流会、2日目は全体交流会が行われ、全国の仲間と交流を深め、職場環境の違いなど相互に新たな発見もあった。また、2日目の全体交流会ではブロック別に特色ある自己紹介があったほか、女性消防職員の元気な姿がめだつた。

消防庁舎の建設に協議会意見をとり入れた事例を紹介したほか、消防職員の惨事ストレスは自身が認識すること、周囲が気付くことが第一歩であることを学習した。

【講座IV 賃金・労働条件】
自分たちが働く職場環境がどのような法的根拠に基づいて規定されているか、基本的な労働法をもとに学習した。

各講座紹介

【講座I ハラスメントと男女がともに担う職場づくり】
自治労総合企画総務局の西田総合局長を講師に招き、女性職員の立場から消防職場の改善点について、男性職員の意識改革が必要であると講義を受けた。

【講座II 消防財政の基礎知識】
基本的な税の仕組みから地方公共団体と消防財政との関係、消防車両を購入する場合に例にあげ、消防防災等施設整備費補助金、防災対策事業について学習した。

【講座III 労働安全と快適職場づくり】
消防庁舎の建設に協議会意見をとり入れた事例を紹介したほか、消防職員の惨事ストレスは自身が認識すること、周囲が気付くことが第一歩であることを学習した。

【講座IV 賃金・労働条件】
自分たちが働く職場環境がどのような法的根拠に基づいて規定されているか、基本的な労働法をもとに学習した。

【講座V 消防の広域化の組織強化・拡大】
現在進められている消防広域化、デジタル無線についての現状報告、消防職場に団結権が回復したときに求められる組織強化の必要性について学習した。

【講座VI 賃金労働条件・模擬協議(団体交渉)】
緊急消防援助隊の勤務条件「休憩時間の適正な付与」について、全消協役員(当局側)と受講者(労働者側)が対面して議論を交わした。議論の裏付けとなる法的根拠など、労働者側もしっかり知識を身につけなければならぬことが実感された。

女性連絡会が新幹事体制を確立

2月16日、自治労会館において2012年度第2回女性連絡会が開催された。すでに書面で互選されていた幹事体制をあらためて確認し、代表には中畑郁美さんが引き続き選出され、副代表には新たに太田心さんが選出された。

また連絡会では、前体制から継続された課題だった「女性連絡会掲示板」の運用も確認した。掲示板は女性会員専用のサイトで、アクセス方法など詳細については、6月の全国消防職員研究会において、説明の場を持つ予定。

そのほか、女性のネットワークと会員拡大にむけた全国的な会議の開催や、男性職員と問題意識を共有化するためのアンケート調査の実施についても検討がされた。

代表(東北・関東甲・北信幹事)
中畑 郁 実
(なかはた いくみ)
神奈川県横浜市



副代表(東海・近畿・中国幹事)
太田 心
(おおた こころ)
大阪府交野市



北海道幹事
與佐田 稚恵子
(よさだ ちえこ)
北海道帯広市



四国幹事

山本 英理子
(やまもと えりこ)
高知県高知市



九州幹事

根引 ひとみ
(ねびき ひとみ)
福岡県大牟田市



●グループワークを通じ熱心な議論が行われた。

報告

全消協第35回定期総会



●総会では参加者からも積極的に意見が出された



●団結ガンパロウで新年度への決意を確認しあった

全消協第35回定期総会は2011年8月24日長野市J Aビルで開催され、180単協から456人の代議員、傍聴者が参加した。会に先立ち3月11日に発生した東日本大震災で犠牲になった方々に黙祷を捧げ、哀悼の意を表した。この総会は、全消協の2年間の活動方針や役員改正を行う「期本年総会」として自治労第83回定期

大会の前段として開かれたもの。「2012-2013年度活動方針(案)」「2012年度予算(案)」について提案し、質疑応答を行い、承認を得た。また、2012-2013年度役員選出が行われ、迫大助会長(福岡・大牟田)を再選するとともに副会長1人、幹事4人が改選された(詳細は次頁のとおり)。総会后、「東

日本大震災活動報告会」が開催され、筑波大学松井教授による基調講演や全消協活動として行った復興支援活動報告がなされた。皆さんからお預かりした災害方ンバや復興支援Tシャツの売上は約1400万円にのぼり、現在、東日本大震災における殉職消防員へ弔意訪問を行っている。

東日本大震災における消防職員の被害状況

県別	消防本部名	お亡くなり、行方不明の方の数	訪問日
岩手県	陸前高田市消防本部	1人	2012/2/13
	宮古地区広域行政組合消防本部	4人	2012/4/21~22 (予定)
	釜石大槌地区行政事務組合消防本部	3人	2012/2/13
宮城県	気仙沼・本吉地域広域行政事務組合消防本部	10人	2011/12/14
	名取市消防本部	3人	2011/11/25
	石巻地区広域行政事務組合消防本部	6人	2011/11/25~26
計		27人	—

2011年3月11日、未曾有の災害となった東日本大震災での

殉職、行方不明の仲間へ 哀悼の意をささげる ～東日本大震災、弔意訪問

は、27人の消防職員の仲間が殉職、行方不明となった。全消協として、2011年11月25日から2012年2月13日までに、被害のあった6消防本部のうち5本部まで訪問している。気丈に振る舞うご家族もあれば、悲しみを隠せないご家族もある。そのいずれでも、震災の残した傷の深さを感じずにはいられない。4月21、22日に予定する宮古地区広域行政組合消防本部の訪問をもって、この弔意訪問は区切りとなるが、現地の皆さんが心から復興を実感できる日まで、連帯活動に終わりはしない。



●焼香する門間事務局長



●岩崎消防長(陸前高田市)に弔慰金を渡す住吉副会長(左)



●2月13日、釜石にて消防本部を訪問

2012年度 新規役員紹介

副会長

中村 達也

(なかむら たつや)

三重県桑名市



消防を取り巻く環境は社会構造の変化とともに大きく変化しようとしています。特に財政難を根拠に消防の広域化や賃金カット、若しくは道州制をにらんだ都構想など私たちの働く環境は大きく変化しようとしています。また、これら以外にも様々な問題が山積していますが、全消協としては機動的に問題に対処していかねければならないと思っています。

東北幹事

樋口 克弘

(ひぐち かつひろ)

新潟県五泉市



全国消防職員の輪を広げ土台を

強固につくること、消防情勢等の展望を明るくするために組織の一人として努力していきます。

北信幹事

遠田 保

(えんだ たもつ)

長野県上田市



座右の銘は「二期一会」です。

「一生に一度しかない出会い」「一生に一度かぎりである」ことを念頭におき、全消協活動に邁進します！趣味・特技は剣道で、剣と酒の二刀流を得意とします。お会いした時はぜひお声がけください！よろしくお願ひします！！

東海幹事

久保 顕也

(くぼ けんや)

三重県津市



私は、消防職員の働く環境、労働条件等で住民サービスが低下することになってはいけな思っています。その職場環境、労働条件をしっかりと考え提言し、変える

事ができるのが全消協なんだと確信しました。まだまだ新米幹事ですが頑張りますので皆さんよろしくお願ひします。

四国幹事

井戸 章夫

(いど あきお)

愛媛県新居浜市



協議会の仲間達と出会い、物質的な援助をしてくれたり、共感し応援してくれたり、アドバイスをしていたいただいたおかげで、私達の世界が広がり職場環境も改善でき、これからも常に成長・発展していくための原動力をもらいました。これからは、私達がもらった原動力をまだ見ぬ仲間達にも伝え、与えられる活動をしていきたいと思っています。自分自身の軸がブレることなく、日々精進し、消防活動に邁進していきますのでよろしくお願ひします。



北海道・木古内消防職員協議会

～ in one united body ～
一致団結する

いちやりばちょうで



※「いちやりばちょうで」とは、沖繩の言葉で「一度会ったらみな兄弟」という意味です。

●設立祝賀会では会員全員がそろってお祝ひした。

全国消防職員協議会の皆様、こんにちは。
私たちは職場環境の改善、仕事への意欲が高まる職場づくり、そして、それが少しでも住民サービスの向上につながればという思いから、2010年9月17日、7人の職員有志によって木古内消防職員協議会を設立し、北海道で57番目の消防協として全消協の仲間入りさせて頂きました。

全消協、道消協の研修会などにも参加させていただき、また、消防職員の団結権のあり方に関する学習会、とくに近隣の単協との情報交換などで、世間知らずであった私たちも成長が感じられる期間でした。
これからは、私たちは業務の充実と地域住民からの目線に立った消防行政にしていけるよう、一致団結して最大限の努力をしていく所存であります。
これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。